

室蘭地方気象台からのお知らせ

地震に備える

平成30年9月6日に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」から3年が経過しました。この地震では北海道内で初めて震度7が観測され、広い範囲で非常に強い揺れとなり大きな被害が出てしまいました。さらに、北海道全域で長時間の停電（ブラックアウト）が発生し、揺れが大きくなかった地域でも生活に大きな影響がありました。

もし、大きな地震による強い揺れを感じたときには、まずは落ち着いて身を守ってください。家庭や学校など屋内にいる場合には座布団やヘルメットなどで頭を守り、丈夫な机の下のような安全なスペースに避難してください。屋外では、ブロック塀が倒壊したり、建物のガラスが割れて上から落ちてくることがあるので注意が必要です。建物の倒壊や火災、津波の恐れがある場合には、地震の揺れが収まってから周囲の安全を確認して、避難をしてください。



いつ地震がやってくるかということは、天気予報のように予測することはできません。いつ起きるかわからない地震から身を守るには、普段からの準備が大切になります。大きな地震の揺れで家具や棚が倒れてこないように、金具やストッパーで固定しておきましょう。防災用品の準備をしておくことや、市町村が行う防災訓練に参加することも大切です。学校や仕事などで、家族が違う場所にいるときに地震が発生する場合がありますので、避難場所や避難経路、連絡方法について日頃から家庭で話し合っておくことも重要です。



気象庁では、地震が発生してから揺れの強さや到達時刻を計算し、可能な限り揺れる前にお知らせする、緊急地震速報を発表しています。強い揺れが来ることが直前にわかれば、いち早く身を守る行動をとることができます。テレビやラジオ、スマホなどで緊急地震速報を見聞きしたときには、すぐに身の安全を確保するようにしてください。